

三十年前ハルピンに倒れた 伊藤博文公を偲ぶ (下)

▲ア・ボポフ氏談
公遺難の目撃者で當時、東清鐵道技師であり日刊氏(ハルピン)の経営者であったア・ボポフ氏(六七)をハルピン市阿什河街廿四號の自宅に訪へば豊饒たる面を紅潮させながら次の如く語つた

私は當時卅七歳だつたが日露親善の立役者であり日本の元勳である公を迎へるためその朝禮装に威儀を正して哈爾濱驛に向つた。驛には當時の駐哈總領事川上俊彦氏の意見で左側に外交團、右側に日人、日本人居留民の順序で並び私は名士の列に居たが伊藤公と會見するため遙々來哈した時の露國大蔵大臣コローフツオフ氏、東清鐵道副總裁ワエンツエリ氏、同鐵道長官ホルツト少將等の顔も見え我々の前方には美々しい軍服を着た儀仗兵が整列してゐた。この日は朝からどんよりと曇つた寒い日だつた。午前九時、伊藤公を乗せた列車は這るやうに驛内に入り豫定の位置に停車した。伊藤公は出迎へのため貴賓車のサロンの中に入った。コローフツオフ氏と一緒には貴賓車から降りて驛相から護衛軍團の各部長官等を紹介され一々握手を交した。私はその時はじめ伊藤公を見た時、公が你い人だと言ふ感じに打たれた。公は儀仗兵の整列してゐる前方を右翼から左翼にかけて檢閲をなし終つてその左側に居並ぶ外交團および露清兩國の官憲および各團體の代表者と交際しそれより驛を返して現在の伊藤公遺難地点記念碑のある附近まで行つた時突然私の並んでゐる左側の方から黒のオート車を着、シルクハットをかぶつた一人の日本人らしき男が何か喚び下らうと一瞬間右側へ走つて行き驛の間伊藤公は長身をのけぞら



電丸九九番 店商屋釜

室内用竹レール創始
高尚優美 防虫防腐製品
無音低塵 美くしく・打付けよい

國華竹レール

實用(一三四二八八)號
新案(一九三六四七)號

京都府園部町 國華第一工場
綾部町 國華第二工場
全 官津町 國華第三工場

東北六縣特約販賣店
會社 平鋼鐵機械商會
代表社員 井尻七三郎

縣を單位に一市一ヶ所確實なる卸賣特約店
一郡單位に一町村一ヶ所確實なる小賣店を
希む
御照會の折は見本携行早速社員參上御相談
中上候

鋭後の作家計費引下に
一日のセールスデーを
ご利用下さい

平マーケット

平市大工町 電話五九一

千やなぞ
賣り始めました

平市土橋

丸仙商店
電話六六二番

十一屋食堂
平局前電話三七三番

出前迅速
女店員・コック見習至急入用

冷凍魚

日本水産特約(電話三六三三六)
卸賣平製氷會社
尾瀬平代理店(平魚問屋)
四丁目(電話五三三)

おしじ 鱒 鮭 金頭 帆立貝
エビ イカ 貝焼 其他

健康の秋!
一家揃つてハイクのお歸りには……

石城の桃源境
小瀧鑛泉

湯本・小名瀧開湯勝の地
御送迎に馬車の用意あり

債券・公債
兩替・金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一

太鼓
各種

神社佛閣用太鼓
武徳道場用太鼓
歓迎迎音音樂隊樂器(タナベ製品)

平市六町目
佐藤太鼓樂器店
電話四八三

ダンス・鏡臺
御婚禮調度品を
取揃へました

是非

和久井屋
御越下さい

平市一丁目【電話四〇五番】

募集
永續者には將來の保證を致します

ボーズさん

サロンのお客様は當地一流の方々ですが、社交儀禮の實際に學び、成功の糸口ともなります

習見婦人

◆定評あるサロンの調理法を御傳授いたします
◆見習ひとして調理場に御勤務出来る御婦人に限る

◆14歳以上30歳迄の健康な方
◆3年以上勤続出来る方
◆親戚者若くは本人御來談下さい

平市銀座街 電話529

産科・婦人科

入院隨時
平市田町
井坂醫院
電話五五九番

職工及見習工募集

平市月見町
會社 佐藤鐵工所
電話三六二番